

Sakura

佐倉市の早期景気観測調査

令和7年度第4回(令和8年1～3月)の結果報告

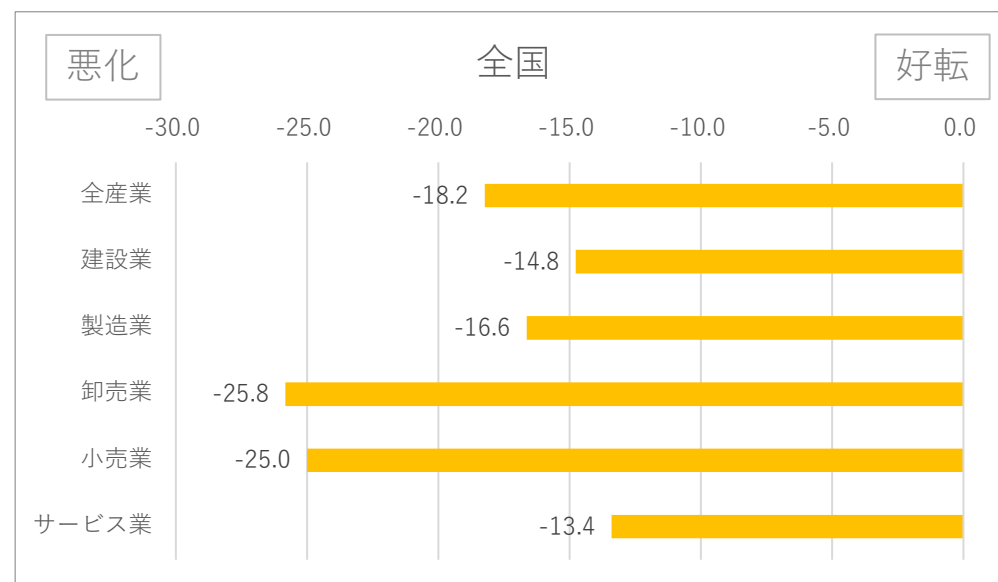
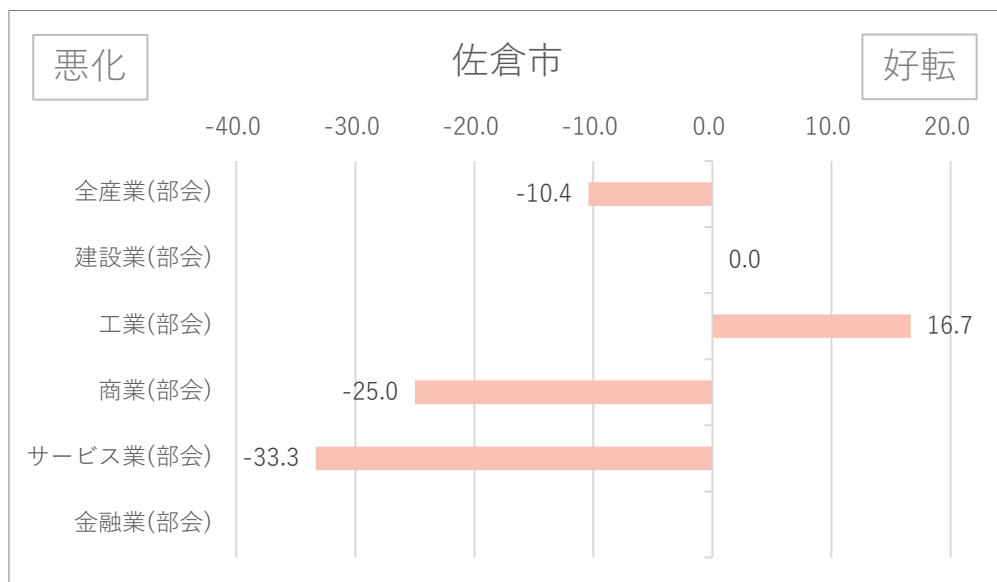
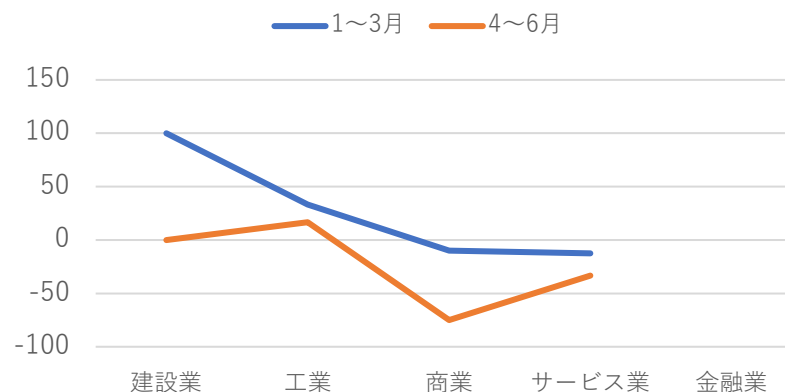


佐倉商工会議所

佐倉市の業況DIは、建設業(部会)が前回の高い水準から大きく後退し、工業(部会)も好転幅が縮小することとなった。商業(部会)とサービス業(部会)もマイナス幅が拡大し、全産業(部会)としても前回のプラスからマイナスへ転じた。全国調査でも悪化基調が続き、総じて慎重な局面が長く続いている。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)を含む全業種で現状より悪化方向が示されている。特に建設業(部会)と商業(部会)で厳しい見通しを立てており、物価高騰の長期化や消費マインドの弱さも重なり、先行きの不透明感が一段と強まる状況である。

■3ヶ月後の先行き見通し

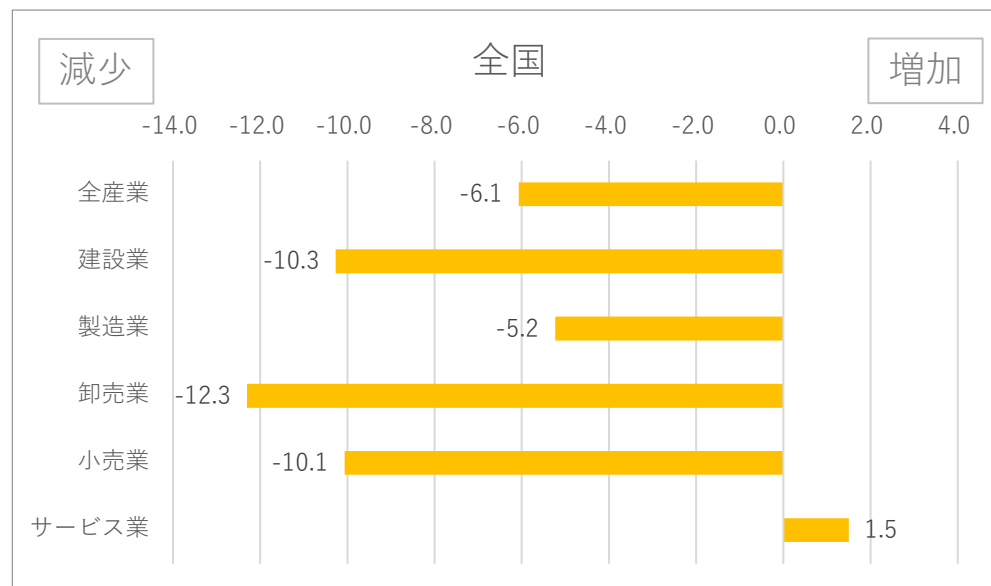
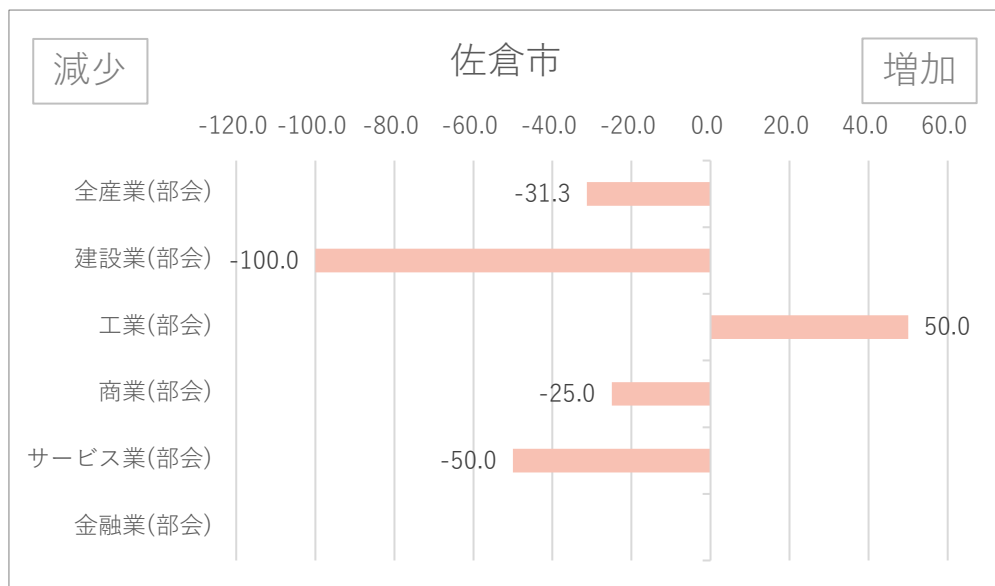
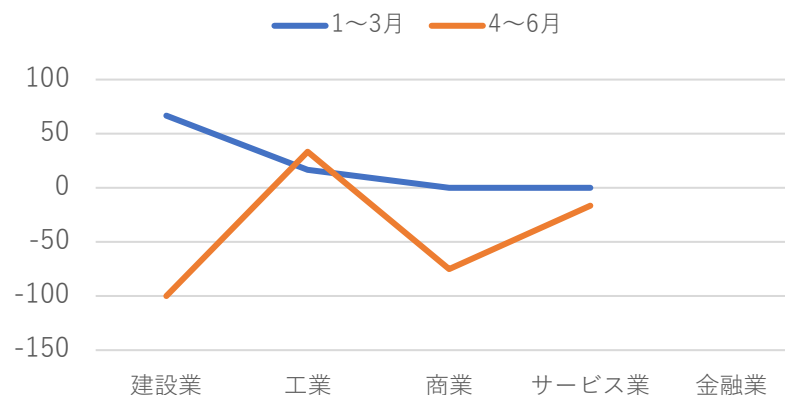


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の売上高DIは、建設業(部会)と商業(部会)で減少幅が拡大し、サービス業(部会)も弱含みに転じるなど、全産業(部会)で減少傾向が進む結果となった。一部、工業(部会)は持ち直しが見られるものの、全体としては力強さを欠いている。全国調査も小売業や卸売業を中心に弱さが続き、回復の足取りは鈍い。

3ヶ月後の先行き見通しは、工業(部会)のみ改善方向が示され、建設業(部会)と商業(部会)、サービス業(部会)はいずれも慎重な見方が続く。物価高の長期化や消費者心理の停滞も重なったためか、売上環境の改善にはなお時間を要する見通しである。

■3ヶ月後の先行き見通し

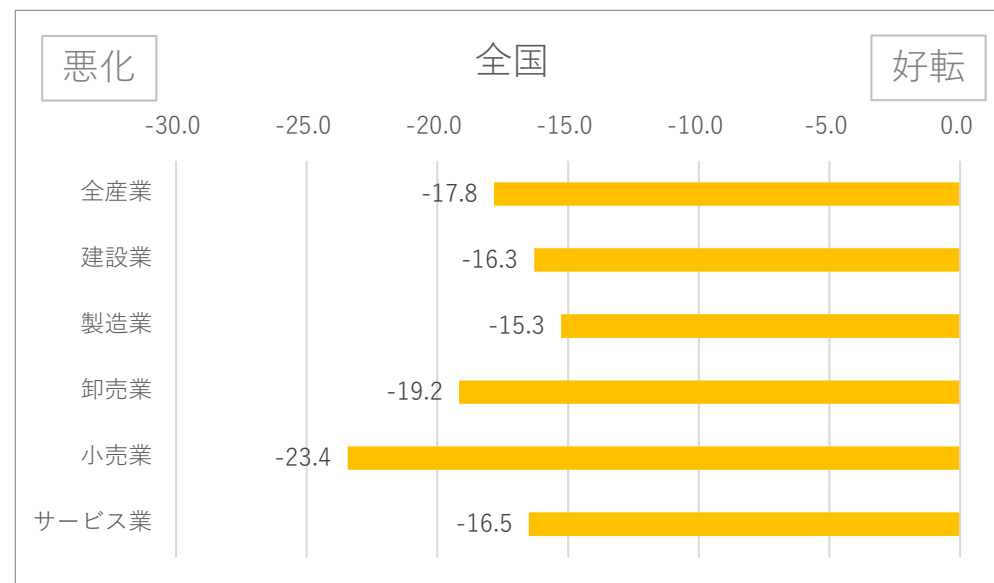
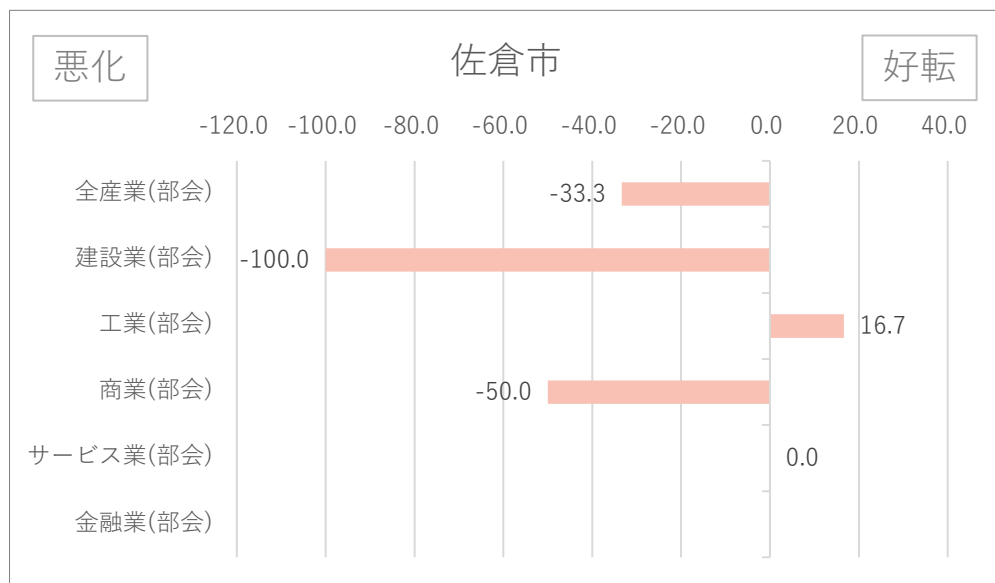
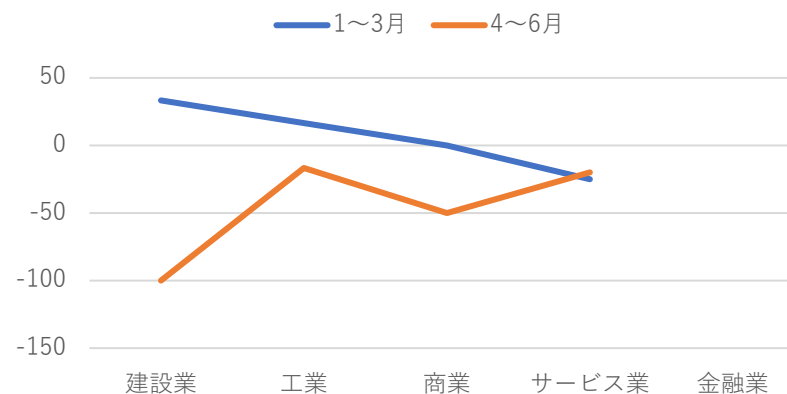


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の採算DIは、建設業(部会)と商業(部会)で大幅な悪化へと転じ、サービス業(部会)はやや回復傾向を示した。工業(部会)のみがプラスを維持したものの、全産業(部会)としては悪化へと転じる結果となった。全国でも小売業や卸売業を中心に全業種がマイナス基調が続いており、コスト上昇の影響が広く及んでいる。

3ヶ月後の先行き見通しは、サービス業(部会)のみわずかな改善が見込まれる一方、建設業(部会)や工業(部会)、商業(部会)はいずれも悪化を見込む。原材料や人件費の負担感が続く中、採算環境の持ち直しには時間を要する見通しである。

■3ヶ月後の先行き見通し

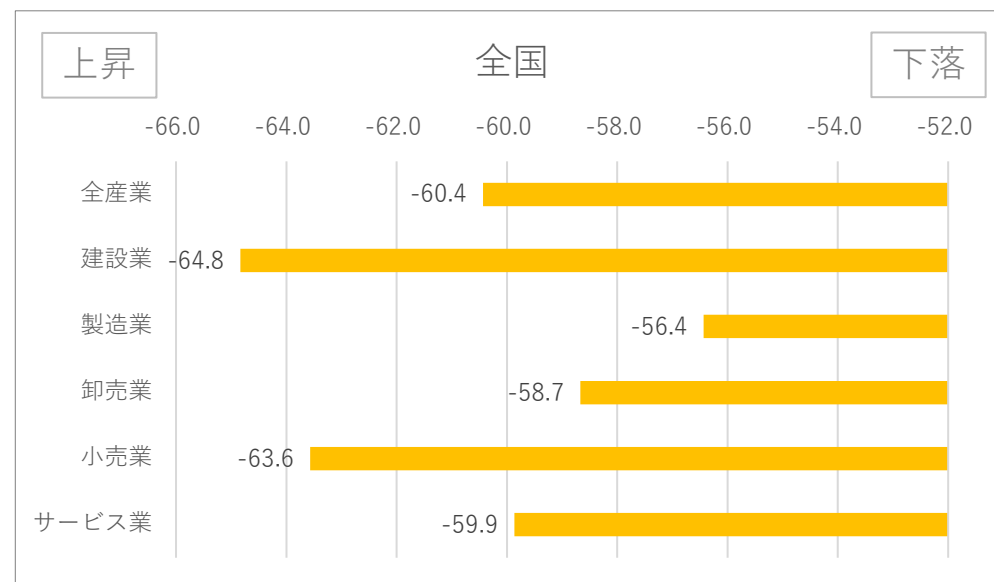
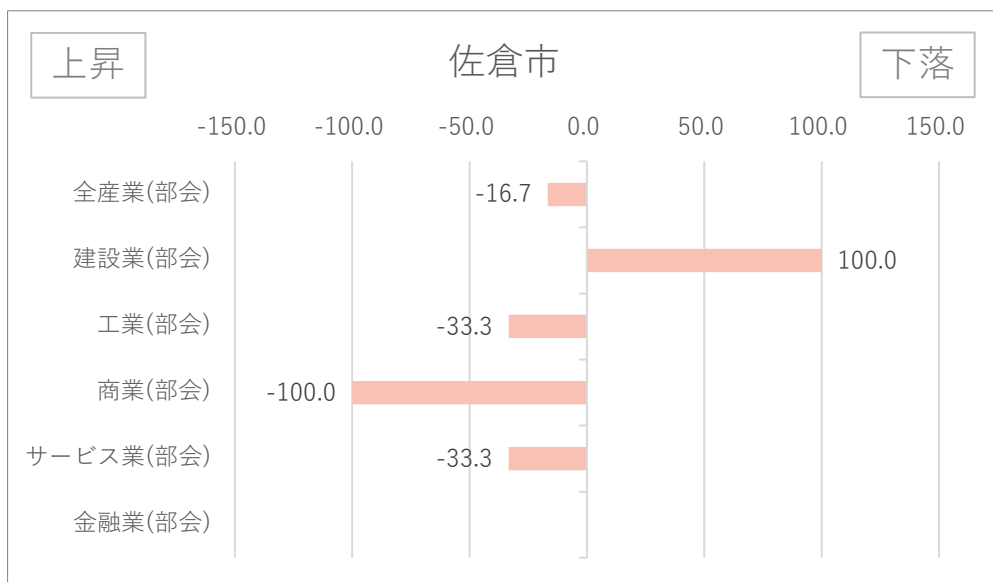
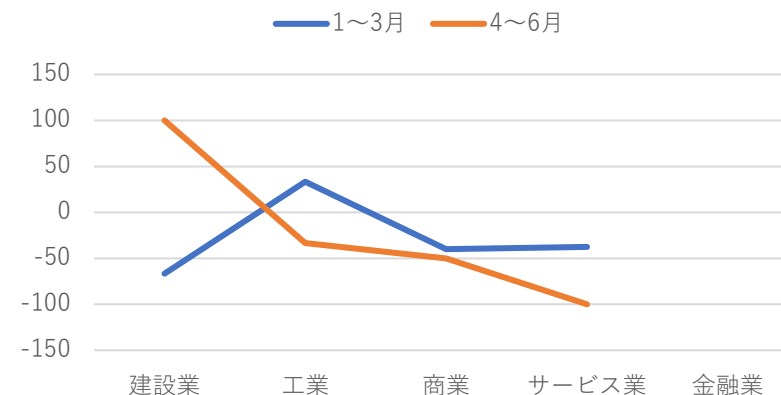


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の仕入れ単価DIは、建設業(部会)のみが下落となった一方で、商業(部会)が大幅に上昇し、工業(部会)やサービス業(部会)でも上昇が続いた。全産業(部会)としても上昇基調が続き、仕入れ価格の高止まりが顕著となった。全国調査でも全業種で上昇が進み、資材価格や労務単価の負担が依然として重い。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)のみ下落が見込まれる一方、工業(部会)や商業(部会)、サービス業(部会)はいずれも上昇傾向である。仕入れ単価の高止まりが続く中、コスト負担の軽減にはなお時間を要する見通しである。

■3ヶ月後の先行き見通し

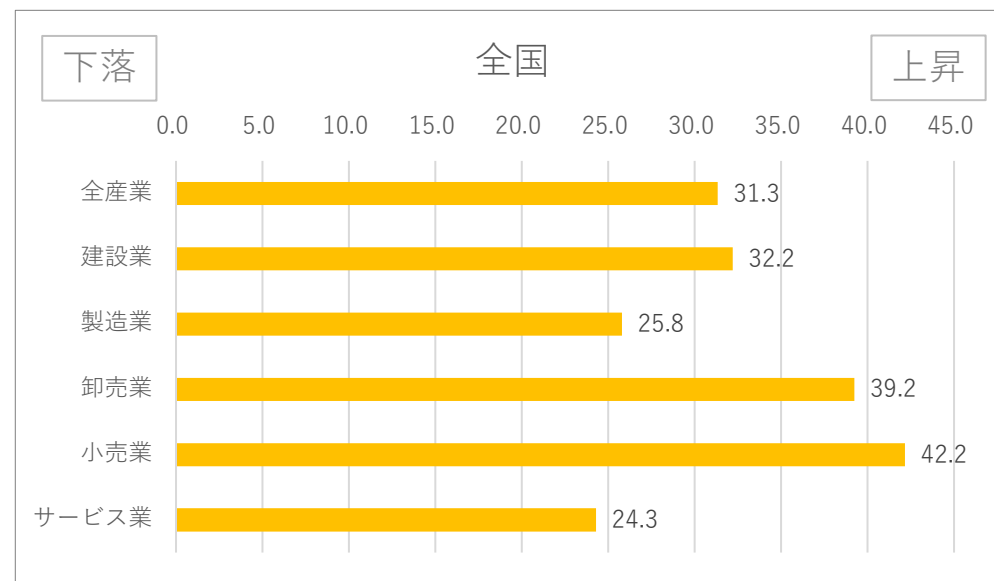
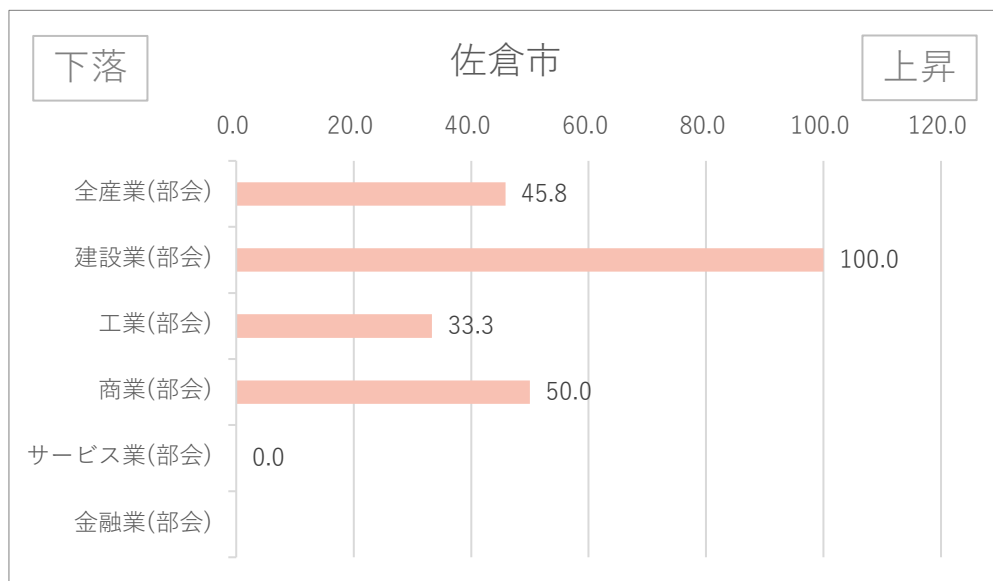
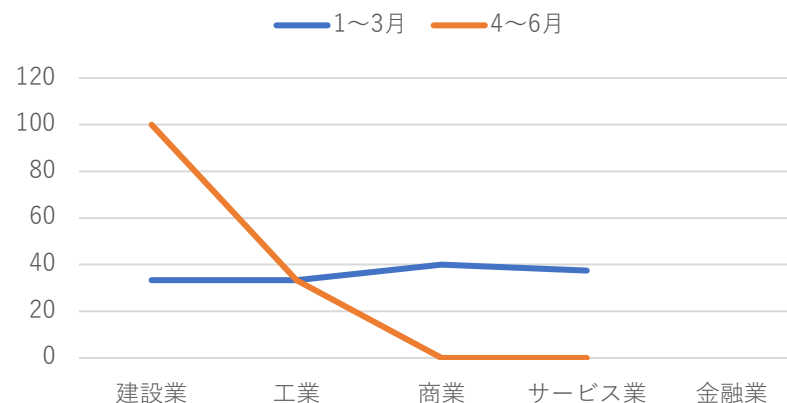


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の販売価格DIは、建設業(部会)が大幅な上昇傾向を示し、商業(部会)や工業(部会)でも上昇が続く結果となった。サービス業(部会)も横ばい傾向を示したが、全産業(部会)としては、価格転嫁などにより上昇傾向を示す結果となった。全国調査でも小売業や卸売業を中心に上昇傾向が継続している。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)で上昇が見込まれる一方、工業(部会)は横這い、商業(部会)とサービス業(部会)では上昇が一段落する見通しとなった。価格転嫁の動きは続くものの、足元では伸びの鈍化も見られ、先行きはやや慎重な展開となっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

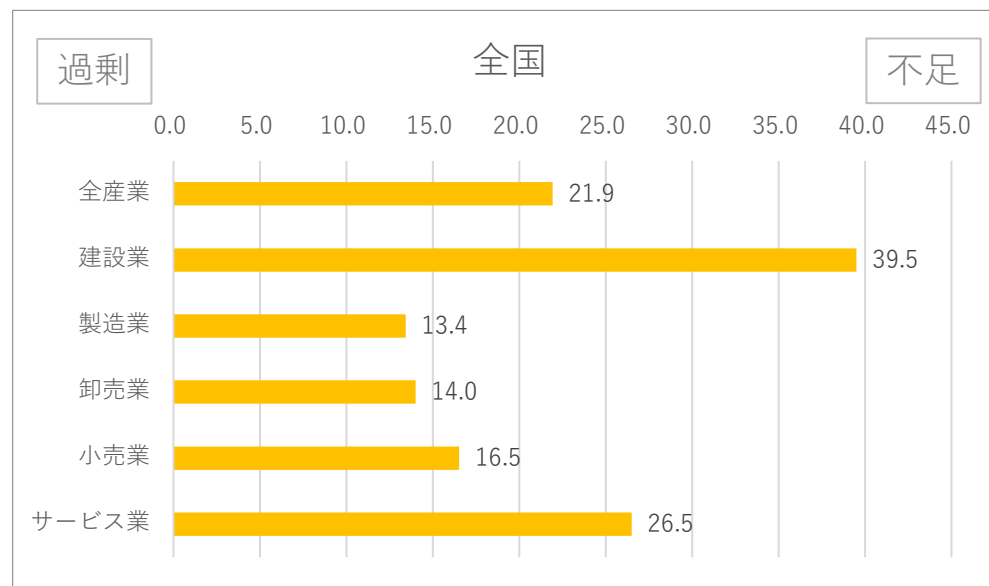
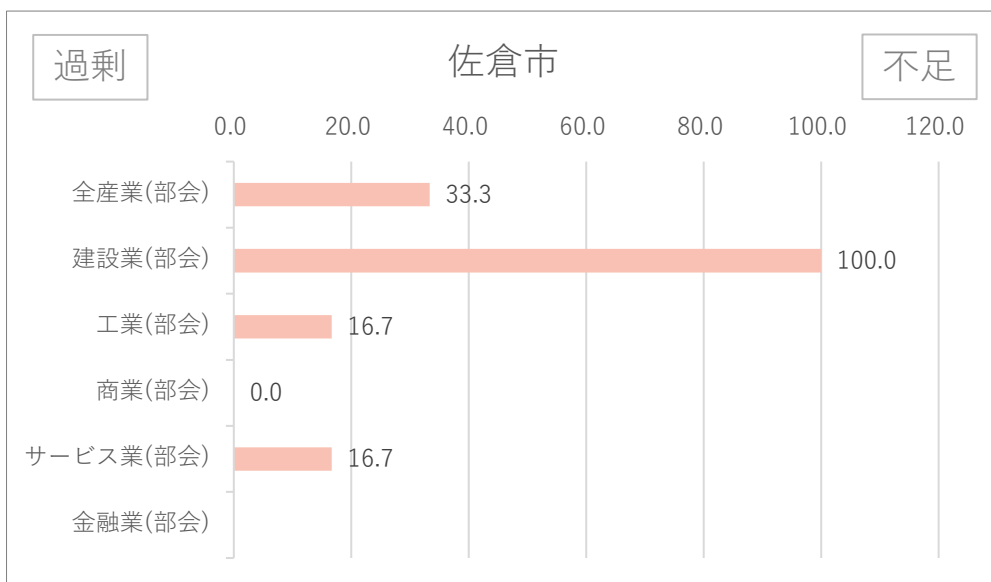
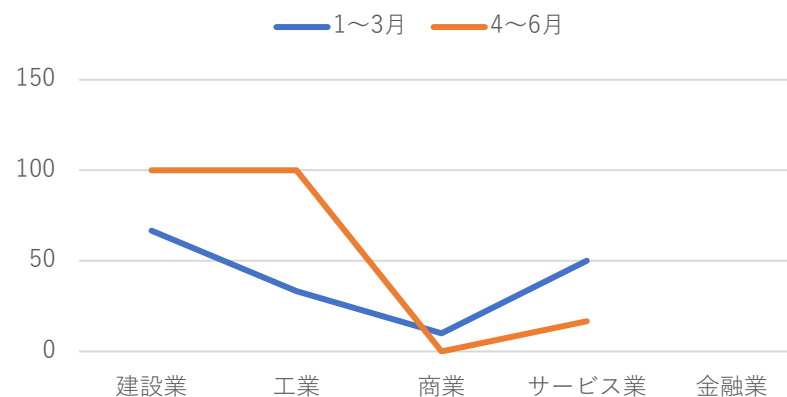


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の従業員DIは、建設業(部会)が突出した不足感を示した。工業(部会)やサービス業(部会)の不足感は前回からやや緩和され、商業(部会)は横這い傾向が続いている。建設業(部会)が牽引するカタチで全産業(部会)で不足感が高い。全国調査でも建設業を中心に不足が続き、採用難や人件費上昇が企業活動の制約となっている。

3ヶ月後の先行き見通しは、建設業(部会)と工業(部会)で不足感がさらに高まる見通しである。一方、商業(部会)とサービス業(部会)では不足感がやや一段落する見通しが示されたが、総じて人手不足の解消には時間を要し、厳しい状況が続くと見られる。

■3ヶ月後の先行き見通し

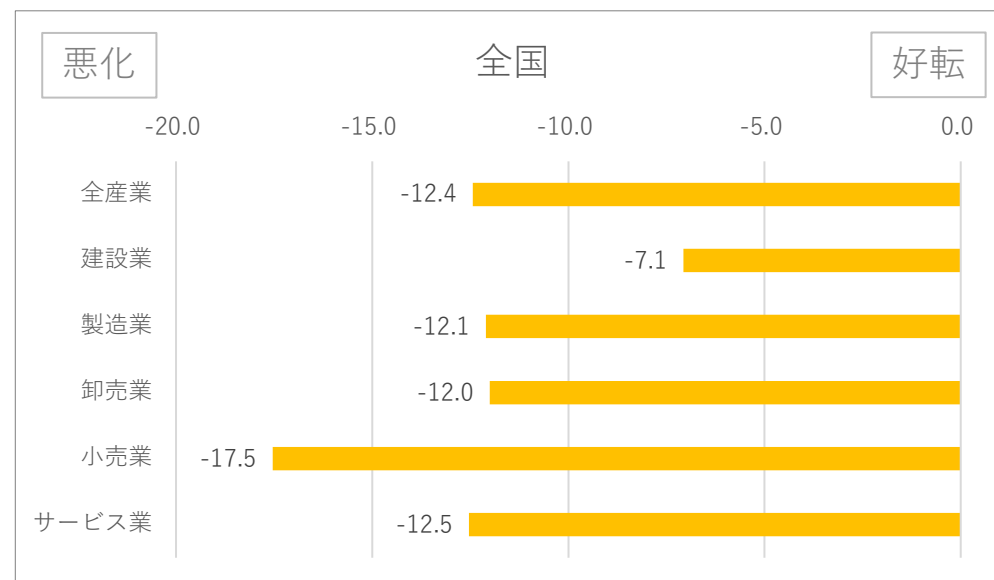
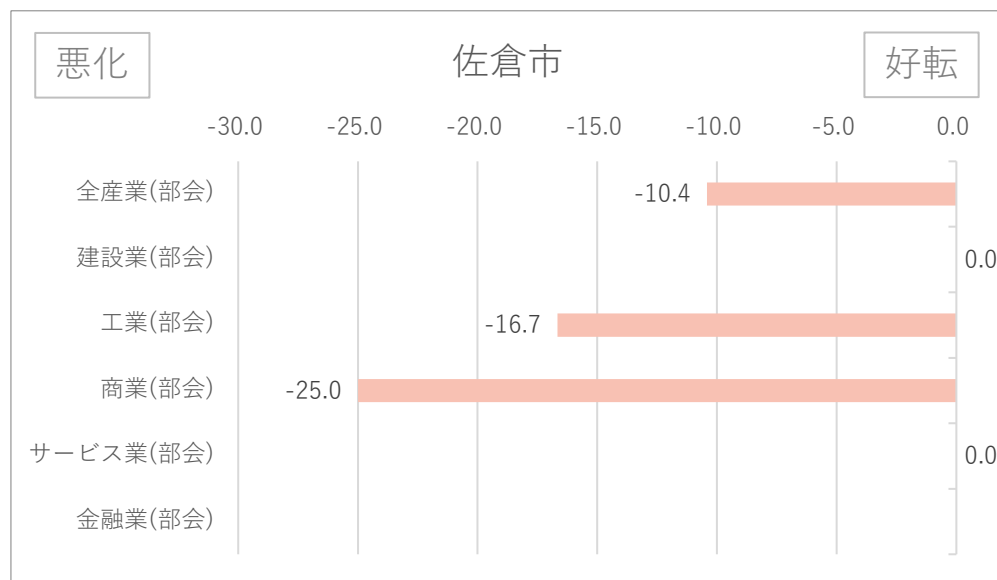
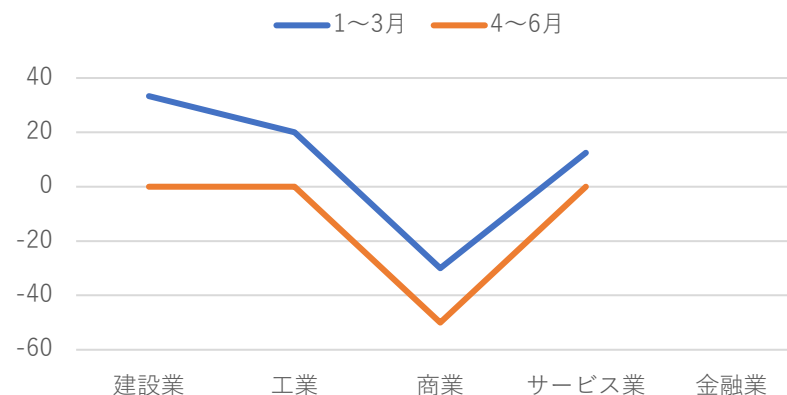


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市の資金繰りDIは、工業(部会)と商業(部会)で悪化傾向を牽引する結果となり、全産業(部会)としても悪化傾向へと転じた。一方で、建設業(部会)とサービス業(部会)は横這いで推移している。全国調査では全業種で悪化が続いており、金利環境やコストの増加が引き続き企業の資金繰りを圧迫している。

3ヶ月後の先行き見通しは、商業(部会)で悪化が見込まれる他、建設業(部会)や工業(部会)、サービス業(部会)でも現在より悪化する見通しとなった。全国的な悪化傾向を背景に、資金繰り環境の改善には時間を要し、引き続き慎重な資金管理が求められる。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルムズ海峡封鎖の影響（石化製品の高騰・入手難） ・ナフサ価格上昇 ・都内再開発の遅れがある ・中国から輸入しているので、情勢に不安 ・中東原油問題 物価上昇（原材料費）
商業部会	<p>・ホルムズ海峡の件で、毎日のように、値上げの見積りが届く。しかも、値上げ幅が従来の10%どころではなく、30%から40%の値上げ（石油製品）原料費は恐ろしいことになっている。当然採算が合わなくなるので、早期対策が必要。</p>
サービス業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争による仕入経費の上昇
金融業部会	

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	<ul style="list-style-type: none">・ 資材高騰、人材不足、メーカーの投資変更など、計画の延期や中止などがあり不透明なところが多い。本年度、現時点では仕事量が少なめの為、競争が厳しく失注もあり今後、価格低下もやむを得ない状況。・ 人手不足解消のための設備投資必要、設備の一括償却の有無や補助金等活用が課題
商業部会	<ul style="list-style-type: none">・ 物価高で、お客様も買い控えを感じられる。賃金UPや原料コストの増加で、利益を出すのが難しくなっている。消費税を一時的になくすとの話も出ているが、そうなると事務手数料が半端ない。加えて、物価高なので、消費税をなくしても、価格はそのまま税分を安く売る事はできないと思う。
サービス業部会	<ul style="list-style-type: none">・ 外部環境の変化として燃料費や人件費の上昇、人手不足、制度変更等が事業に影響を与えていると思います。今後は更なる効率化と人材確保を中心に安定的な事業運営に務めてまいりたいと思います。
金融業部会	

早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。【景況判断指数 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)】

調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	34.02%	7.06%	22.93%	32.80%	3.18%
回答数 構成比	23.53%	35.29%	5.88%	35.29%	0.00%

調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和8年1月～3月（3ヶ月間）

回収期間：令和8年4月1日～4月30日（Googleフォーム）